

は良いが、ご都合主義の逃げ口上としか私には思えない。核・ミサイルと拉致は全く性格の異なる問題であり、拉致問題単独できちんとした戦略を立てるべきである。また、③であたかもボールは、北朝鮮側にあるような発言をしているが、これには異論がある。昨年の合意は、同時行動が原則だったはずであり、現状では日本側が先に行動の意思表示をし、北朝鮮の同時行動を促すべきである。すなわちボールは日本側にあると思うのである。

翻って、では鳩山首相はなぜこの演説の内容を日本国民に向けて発信しないのであろうか。被害者家族らに面会した際、伝えたとも聞いていない。

#### 4. 民主党は7年間を検証・総括すべき

少なくとも、民主党政権はこの7年間に自民党政権が執ってきた対北朝鮮政策を検証・総括する必要がある。なぜ膠着状態が続いているのか。糺すべきところは糺すべきである。北朝鮮は、「自民党政権は倒れて当然」という趣旨の発言をしていた（とはいえ民主党政権支持とは言っていないが）。これは、対北朝鮮政策について、従来とは異なる方向へ大きく舵を切る最大かつ唯一のチャンスであると考えられる。

#### 5. 7年間の分析

##### (1) 経済制裁の有効性

北朝鮮がなぜ日本を相手にしないのか、何を怒っているのか、北朝鮮の視点に立ってよく考えてみる必要もある。その背景をこの7年間を振り返る形で自分なりに分析してみたいと思う。

5人の被害者とその家族が帰国・来日して以降、日本政府が執った政策は経済制裁であった。私は、それも一つ的手段と考えていた。ただし、経済制裁は平和的解決と武力行使の間にある手段であり、戦争をしないわが国にとっては最後の手段である。しかるに、実行するに当たっては、被害者の救出につながるような戦略的なものであるべき、と主張してきたつもりである。つまり、どのような動機付けで、シナリオであるいはメカニズムで被害者が救出されるのか、知恵を絞った上での制裁である。ところが、実際に制裁は行われたが、それは2006年の核実験が発端であり、拉致問題に関しては後付けであったと言える。そこに、私の言う戦略があったかといえば全くない。やみくもな経済制裁は、北朝鮮の感情を悪化させ彼らの結束を固めるだけで